

# セセリチョウの仲間

チョウのなかでは胴体（腹部）が太く、地味な色。分類学的にガの仲間に近いとされる。飛ぶのが速く、小さく上下に振れるので拵蝶（セセリチョウ）とされる。英語ではスキップする者の意味でスキッパー（skipper）という。触角先端が細く外側に湾曲するものが多い。  
 幼虫の食草は基本的にイネ科植物で、葉を巻くようにして巣をつくる。この項はすべてセセリチョウ科。日本産既知種36種（世界では約3,000種）。

セセリチョウ類（チョウ目）

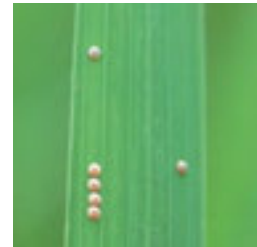
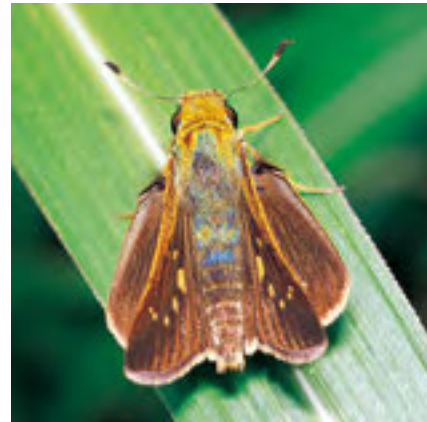
セセリチョウ類（チョウ目）



**イチモンジセセリ**  
 後翅の斑紋が一直線に並ぶのでこの名がある。秋に個体密度が高くなり、各所で花を訪れる姿を見る。開張34-40mm。〔10月、千葉〕(p17口器,51蛹,54食)



**イチモンジセセリ幼虫**  
 幼虫はイネの葉を巻きツト（苞）のような巣をつくるので、イネツトムシという名で呼ばれる。終齢幼虫の体長約33mm。



**イチモンジセセリ卵**  
 直径約1mm。〔撮影：平井一男〕

**イチモンジセセリの翅のたたみ方**  
 セセリチョウの仲間は翅を半開きにしてとまる。〔8月、山梨〕



**チャバネセセリ成虫と幼虫**  
 暖地性で関東から富山県以南に定着している。成虫は開張34-37mm。〔10月、高知〕  
 幼虫の食草はイネ科植物など。終齢幼虫の体長30-35mm。〔8月、高知〕



**コチャバネセセリ**  
 幼虫の食草はタケ類で、タケ類のある林縁に生息。開張約28mm。〔5月、高知〕



**ギンイチモンジセセリ**  
 翅の裏に銀色のすじ。飛ぶのが遅い。ススキやチガヤなどの明るい草はらに生息。開張30-34mm。



**アオバセセリ成虫と幼虫**  
 大形のセセリチョウ。食樹はアワブキ科植物で、溪流沿いの林などに多く見られる。宮城・秋田以南に分布。成虫は開張43-49mm。〔5月、高知〕  
 終齢幼虫の体長約48mm。〔7月、高知〕



**キマダラセセリ**  
 林縁や明るい林内の草上に多い。近くを仲間が通ると追尾し、また戻るといった習性がある。開張25-32mm。〔6月、千葉〕



**ダイミョウセセリ**  
 林縁部に生息。飛び方、止まり方はセセリチョウらしくない。幼虫の食草はヤマノイモ科植物。開張33-36mm。  
 後翅に白い紋様のない関東型〔左：7月、茨城〕と紋様の現れる関西型〔右：9月、高知〕があり、分布の境界付近では中間型も見られる。



## セセリチョウの奇妙な習性

セセリチョウ類の多くは花や発酵果実から吸汁するだけでなく、鳥の糞に自分の排泄物をかけ、溶かして吸うことが観察されている。また、排泄物だけを吸い戻す行動も見られる。  
 ほかにも成虫の集団移動や占有行動など、セセリチョウ類には興味深い習性が多数あるが、解明されていないことが多い。



鳥の糞をオシッコで溶かしながら吸収するイチモンジセセリ